

個人質問

11月定例市議会では、三十一人の議員が、議案や市政全般についての質問を行いました。その中からいくつかを取り上げて、要旨を掲載します。

財政・まちづくり



地方債の低利借り換え

実現に向けて

問 本市が国に要望してきた地方債の低利借り換えについて、条件を緩和する国の動きがあるが、その内容は。

答 政府系の市債には、現在の

低金利時代に七%超の金利のものもあり、借り換えのためには、補償金を要する制度となっている。国の財政制度等審議会では、合併や職員数削減など行政改革の推進、財政健全化



立体化に向け動き始めた国道2号バイパス

計画の策定などを条件に、補償金なしでの低利借り換えを認める方向で調整されており、要望の実現に大きく前進したと考える。

国道2号立体化工事

国と連携し住民要望に対応

問 国道2号バイパスの立体化工事に伴う住民の要望や苦情への対応窓口は。

答 岡山国道事務所の現地事務所が一元的な窓口として二十四

時間体制で対応し、周辺地域にはチラシなどにより連絡先などを周知すると聞いている。本市としては、国道

事務所への連絡体制を整えるとともに、市に関連した要望や意見に対しては速やかに対応したい。

地域ぐるみで

花と緑を育てるまちへ

問 花と緑を育てる運動が地域に定着するための取り組みは。

答 花や緑の指導者を養成するため、市公園協会がさまざまな講習会や行事を企画し、多くの人と活動の輪を広げている。なお、毎年約二百五十カ所の市民花壇に草花の苗を配布し、市内五百四十七団体の愛護委員に育成してもらっている。また、市内四路線をフラワールードと位置づけ、約一万五千株の草花の苗を配布し、地元町内会や沿線の店舗などへ維持管理をお願いしている。

多様な世代が暮らしやすい

市営住宅の在り方を検討

問 高齢化と老朽化が進む市営住宅の今後の在り方は。

答 高齢者に加え、新婚世帯、子育て世帯など、多様な世代が

暮らしやすいよう、子育て支援施設や介護支援施設、さらに生活利便施設等も一体的に考えることが重要だ。そのためにも、従来の縦割りの発想を排し、関係局が連携し、一体となって取

市民協働・安全安心



り組む組織体制をつくる必要がある。現在、平成19年度半ばを目標に今後の住宅施策の基本となる「住宅基本計画」を策定中であり、これらの点について検討したい。

外国人市民会議の提言

本年2月頃取りまとめ

問 内なる国際化に向け、外国人市民会議の開催状況及び提言が出される時期は。

答 外国人市民が増加する中、その意見や要望を市政に反映するため、平成17年2月に設置し、これまで「ことばと暮らし」、「住宅」、「子どもの安全・安心」等を主なテーマに、会議を七回開催した。現在、意見集約中で、19年2月頃には提言書が取りまとめられる予定だ。

里山再生支援事業

問 吉備中山など里山の整備活動をを行う団体への支援策は。

答 平成18年度から里山再生支援事業を開始し、現在十一グループの参加を得ている。グループには運搬車、草刈り機等山道



地域の里山として環境・景観を保全(吉備中山)

具の貸し出しや里山整備に関するノウハウを提供している。なお、活動の顕著なグループには、一年に三グループに対し、一回